

ランク

1 「言う」系動詞の使い分けを完全マスター!

これが
使い分けの
決め手!

「発表・意見主張・ささやき・つぶやき・ほのめかし」
系の類語の使い分けが重要!

「言う」の類語は、まず speak、talk、say、tell、give の使い分けが基本です。「エネルギーに話す」なら speak、「対話したり、重大な事を話したり、説得する」なら talk、「長さに関係なく言葉を発する」なら say、「中身のある情報を伝えたり、命令したり、告げ口する」なら tell、「意見・感想を述べる」なら give です。そしてレベルが上がってくると、mention、argue、claim、insist、express、insinuate、proclaim、voice などの適切な使い分けができるようになります。

それでは、まず「言う」グループの類語の使い分けクイズにチャレンジしていただきましょう。

Q: 下段の語群から適切な語を選んでください。

- ① Whom do you () to?
君は誰のことを言っているのですか。
- ② I () damages against him.
私は彼に損害賠償を要求した。
- ③ I will () my belief.
私の信念をはっきりと述べる。
- ④ He will () the audience tomorrow.
彼は明日聴衆の前で話す。

[address / claim / allude / articulate]

解答

- ① allude (ほのめかす) ② claimed (要求する)
- ③ articulate (はっきり言う) ④ address (聴衆などに話す)

このグループの英語の類語はこの日本語に近い!

voice は「言い表わす」、state は「明言する」、disclose は「暴露する、後悔する」、expose は「暴く」、discuss は「述べる」、describe は「説明する」、argue は「論じる」、broadcast は「言いふらす」、declare は「宣言する」、proclaim は「公表する」、describe は「説明する」の意味に近い。

「言う」の日本語の類語はこれだ!

このグループの日本語類語は非常に多く、「述べる、言い表す、発言する、主張する、発表する、意見する、ほのめかす、つぶやく、言いもらす、表明する、陳述する、論じる、語る、伝える、吐露する、御託を並べる」などがある。

レベル	「言う」系の動詞
初中級	say, talk, tell, speak, give, put, name, add, mention, mean, report, discuss, repeat, suggest, insist, pronounce, claim, refer to, reveal, whisper, describe, announce, argue, state, remark, convey, rumor, declare, express, swear, lecture, imply, maintain, assert, relate, recite, deliver, communicate, broadcast, leak, address, profess, affirm, voice, disclose, utter, mumble, contend, proclaim, allege, murmur, mutter, sound, verbalize, allude, testify
上級	enunciate, articulate, insinuate, mouth, sermonize, vocalize, spout, harangue, intimate
超級	pontificate, expatiate, attest
句動詞	get at, hint at, set forth, drive at, come out, bring out, speak in

類語の使い分けポイントはこれだ!

「言う」の類語は「発表・表明系」、「意見主張系」、「ささやき・つぶやき・ほ

のめかし系」の3つに分類できます。

(a)「発表・表明」系

これは主に表立って話す行為自体に重点を置く意味を持つグループです。「宣言する」を語源に持つ **declare** は「正式に、公に発表する」の意で、よく似た意味の **proclaim** は「重大な国家的な出来事を宣言する」という意味です。他に **testify** は裁判など厳かな場面で「宣言する」を意味します。**address** は ad-(〜に向けて) という意味を含むことから「直接多くの人に対して話す」という意味です。

これらはそれぞれ **declare an emergency** (緊急事態を宣言する)、**proclaim the independence** (独立を宣言する)、**testify at a trial** (裁判で証言する)、**address a meeting** (会議で挨拶する) のように使います。**broadcast** は「広く投げかける」が語源で「言いふらす」の意でお馴染みの「放送する」から連想でき、**broadcast the rumor** (噂を広める) のように使います。

また **harangue** は「長々と熱弁をふるう」、**spout** はプシュッと水などが流れ出る音が示すように「面白くないことをたくさん、または繰り返し話す」、**verbalize** は verb の語源が「言葉」であることから言語化する、つまり「言葉で表現する」を意味します。これらは **harangue the audience** (聴衆に長々と熱弁する)、**spout her views** (彼女の考えをまくし立てる)、**verbalize their feelings** (彼女の気持ちを言葉で表す) のように使います。

はっきりと言うことに視点を置く語には **articulate** があり「はっきりと話す」の意。よく似た語に **enunciate**「明確に述べる」があり、**articulate/enunciate my vision** (見解をはっきり話す) のように使います。

この他 **utter** は何かを「声に出す」の意で **utter a cry** (泣き声を出す) のように使います。**pontificate** は名詞では「法王の地位」を意味することから、もったいぶって「尊大に話す・御託を並べる」を意味します。

(b)「意見主張」系

これは意見を伝えたり主張するグループです。**mean** は広い意味を持ちますが言う系では「本気で言う」、**describe** は「描写する」の意を持つことから「特徴を述べる」を意味し、それぞれ **I mean it.** (本気で言っているんだ)、**describe the hotel as lavish** (そのホテルは豪華だと言う) のように使います。

argue は「明確な理由とともに考えや意見を述べる」、**assert** は「確信し断固として事実や信念を言う」、**claim** は「証拠がなくとも、一方的に正当性を主張する」、**allege** は副詞形 **allegedly** (申し立てによると) で使われることが多いですが、「証拠を示さずに悪事や違法行為を伝える」を意味します。また、**contend** は「強く主張する」の意。

(c)「ささやき・つぶやき・ほのめかし」系

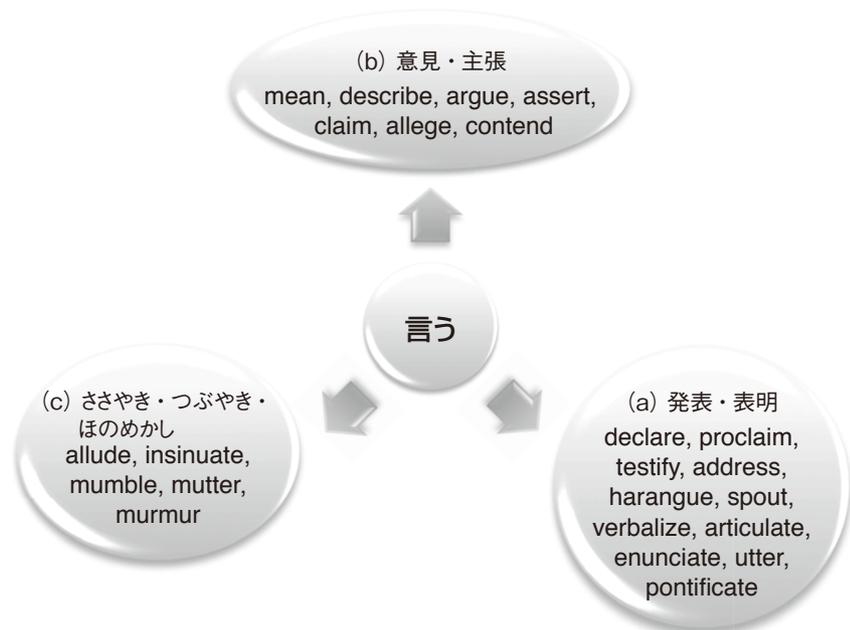
これは、明確に述べないグループです。同じ「ほのめかす」でも **imply** は必ずしも言葉ではなくてもよいのに対して、**allude** は「言葉でほのめかす」で句動詞 **hint at** と同義。**insinuate** は「良からぬことを不快な様子でほのめかす」と使い分けます。それぞれ **allude to marriage** (結婚をほのめかす)、**insinuating remarks** (ほのめかす言葉) のように使います。

小声シリーズには、音を閉じた **M** の音を使った単語が多くみられます。**mumble**「ぶつぶつ話す」、**mutter** は「不明瞭な声で言う」を意味します。他に **whisper** よりも声の大きい **murmur**「小声で言う」などです。これらは **mumble to myself** (ぶつぶつ独り言を言う)、**mutter something under her breath** (何か小声でつぶやく)、**murmur a prayer** (祈りをつぶやく) のように使います。

「言う」を意味する語の必須コロケーションを CHECK!

	war	the idea	concern	the right
proclaim	○	×	×	△
claim	△	×	×	◎
voice	×	○	◎	△
declare	◎	×	×	○
discuss	×	◎	×	◎
describe	○	◎	×	◎
mention	△	◎	△	◎
express	×	◎	◎	○

一目でカンタン理解「言う」の使い分け MAP!



ワンポイント・アドバイス

give は、**Give it to me straight!** (はっきり言ってよ) のように口語でよく使われます。
話す時は「**give, say, speak, tell, talk, mean**」の使い分けを、書く時は「**argue, discuss, claim, describe, maintain**」の使い分けができるようになります!

その他の「動詞」重要 類語グループをマスター! ①

「わかる・認識する」の類語の使い分けをマスター!

「わかる」の類語は多いですが、まず口語的なものには **understand** (the situation) 「意味や仕組みや人の気持ちや状況がわかる」、**see** (your point) 「本質が見えたり、全体のイメージが湧く」、**figure out** (why he did it) 「じっくり考えて何故そうなのかがわかる」、**(I don't) get** (it) 「口語でじっくり行くこと」、**catch** (your name)、「名前などをキャッチする」、**(I) know** (you can make it)、「経験や知識から事実や状況を知っている、確信している」、**tell** (the difference between the two) 「認識できる、違いが判る、知っている」、**find** (it difficult) は「発見してわかる」、**find out** (about the truth) 「真相を突き止めてわかる」、**read** (her intentions) 「読んで意味を理解したり、人の表情から心を読み取ったり、本質を見抜く」、**follow** (what you mean follow) 「説明などがわかる、ついて行ける」などがあります。

その他にもよく使われる類語として、**recognize** (his face) は「以前に知っていたものだわかる、物事存在や事実を認める」、**realize** (the importance) は「今まであやふやであったものが現実のものとしてリアルにはっきりわかる」、**appreciate** (the value) は「よいものを味わってその良さがわかる」、**notice** (the change) 「五感で何かの存在に気づく」、**identify** (the cause) は「はっきりと正体や起源がわかる、発見する」、**discover** 「今まで知らなかったことに気づく」、**interpret** (the meaning) は「行動や出来事に何らかの意味があると見なす」、**make sense (out) of** は「理由・目的など真相や理にかなっているかがわかる」などがあります。

また、ワンランク UP として、**comprehend** (the situation) 「複雑なことを完全に理解する」、**distinguish** (the real from the fake) 「何かほかのものとは違うと認識する」、**perceive** (the danger) 「五感を働かせて気づく、何らかのとらえ方をする」、**acknowledge** (her genius) は「事実・価値・重要性を認識する」、**detect** (a lie) 「非常にわかりにくいものや犯罪などを発見する」、**sense** (his anger) 「誰にも知らされなくても証拠がなくともわかる」、**discern** (the difference) 「かなり見分けにくいものを五感と頭で識別する」、**grasp** (the concept) 「複雑なことを完全に理解する」、**fathom** (her real intentions) 「深く考えて難解なことがわかる」などがあります。